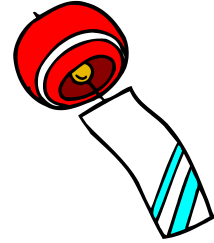


夏の風物詩、風鈴

風鈴とは、日本の夏に家の軒下などに吊り下げて用いられる小型の鐘鈴です。小さな釣鐘状の中から舌という部品が垂れ下がり、舌に短冊をつけるしてあります。風が吹くと、短冊が揺れ動いて舌が釣鐘に当たり、音が鳴る仕組みです。



風を音色に変え、その風情を楽しむ日本文化の一つです。

●風鈴のルーツは占いの道具



っていきました。

竹林に下げて風の向き、音の鳴り方で、物事の吉凶を占う占風鐸（せんふうたく）と言う中国の道具が起源です。これが仏教と共に日本に伝えられ、お寺や貴族の屋敷の軒下四隅などにつり下げられ、魔よけとして用いられたのが「風鐸」です。風鐸のガランガランと鳴る音が聞こえる範囲には災いが起こらない、疫病神が入ってこない、などと言われていたようです。風鈴の音とはかなり違っていました。

鎌倉時代になると、この風鐸が風鈴に姿を変えて広ま

●江戸時代ブーム到来

江戸時代になると、青銅製の多かった風鈴に、ガラス製が登場します。長崎のガラス職人が風鈴を作り、大阪や京都、江戸で売り出したのです。

ガラスは貴重だったので、当初風鈴は今の価格で200～300万円もしたそうです。

江戸末期になると、江戸でもガラスが作られるようになり、庶民も涼しい音色を楽しめるようになったのです。



昔から有名なのは、ガラスでできた「江戸風鈴」、南部鉄でできた「南部風鈴」などで、金属を火箸状にした「火箸風鈴」も有名です。

●昔の人に学ぶ、風鈴の気くばり

風鈴の音色も捨てがたいけれど、音がうるさいのでは？と思われるかたも多いのではないのでしょうか。

風鈴を好んだ江戸庶民は、眠る前や雨風の強い日は風鈴をきちんとしまい、迷惑をかけないよう、周囲への気配りも欠かさなかったとか。風鈴がより愛され、普及した所以かも知れません。

●風鈴のツボ

風鈴の音はなぜ心地よいのでしょうか？

風鈴は形が複雑ですからいろいろな成分を持った振動数の音が出ます。それが重なり合うとゆらいできます。また、風が吹くと短冊がトントんと不規則にはためきます。私たちは体のリズムと同じようなゆらぎを持った刺激を受けると心がリラックスします。それは人が自然の中を感じる、「いのち」のリズムに通じているからです。

つまり、音がゆらいで心地よい重なり合い、変化する不規則な音が、心地よさの秘密だったのです。

しばし風の奏でる音を聞いてみましょう。暑さを忘れて涼やかな風を感じることでしょう。



参考文献

<http://darumasan.blogspot.jp/2006/07/wind-chimes-fuurin.html>

<http://www.samue-e.com/blog2/index.php?itemid=2682>

wikipedia

篠原風鈴本舗 HP より

美の壺 風鈴 <http://www.nhk.or.jp/tsubo/arc-20060714.html>

英語で紹介する日本事典 (ナツメ社) 堀口佐知子 監修